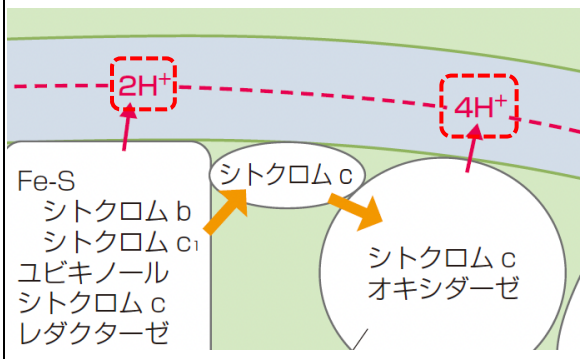
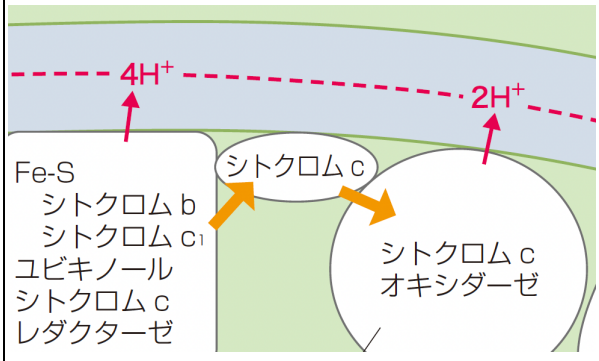
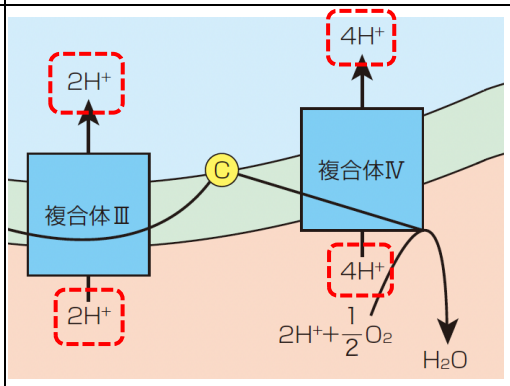
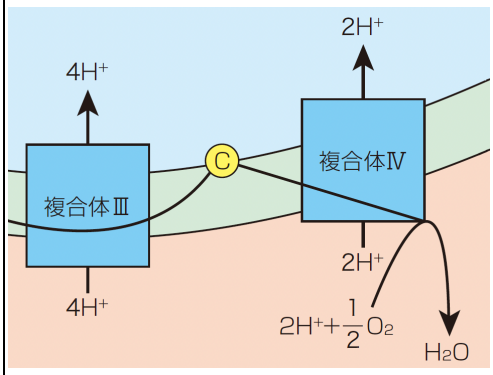
2025 年 6 月 5 日

改訂２版『集中講義 生化学』正誤表

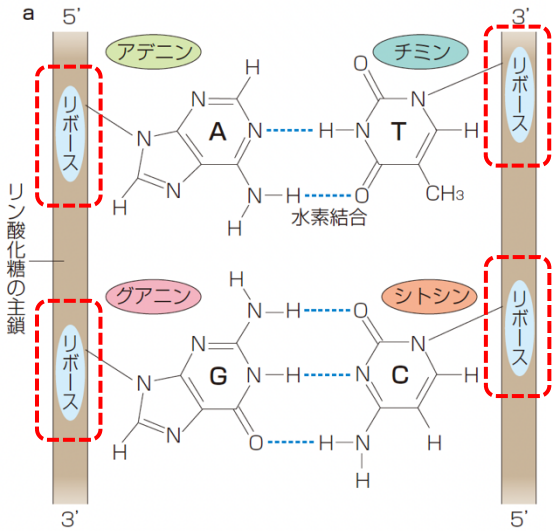
メジカルビュー社編集部

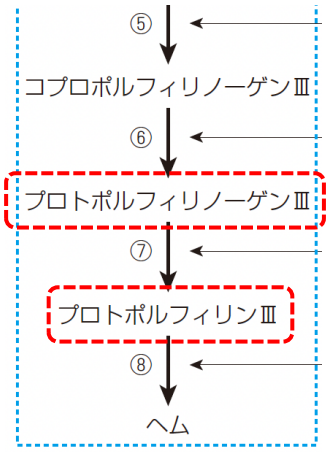
改訂２版『集中講義 生化学』に下記の誤りがありました。ここに深くお詫びし，訂正申し上げます。

第 5 刷（2025 年 3 月 10 日）

頁	該当箇所	誤	正
223	図 1		
223	図 2		
224	本文 2 行目	……膜間腔に（4 個の）H^+を汲み出す。	……膜間腔に（2 個の）H^+を汲み出す。

第 1 刷（2017 年 4 月 1 日）～第 5 刷（2025 年 3 月 10 日）

頁	該当箇所	誤	正
25	図 4	リボース（4 箇所） 	2'-デオキシリボース

160	図 6	プロトポルフィリノーゲン Ⅲ プロトポルフィリン Ⅲ  	プロトポルフィリノーゲン IX プロトポルフィリン IX

また，本文の内容に関して，下記の通り補足いたします。

頁	該当箇所	補足
223	図 1，図 2	各複合体が膜間腔へ汲み出す H^+の個数については，成書により記載が異なる場合がある。なお，電子伝達系の各複合体は別々に存在するわけではなく，複合体 I，二量体の複合体Ⅲ，複合体Ⅳが集まった，巨大な超複合体（レスピラソーム）として存在することが近年確認されている。

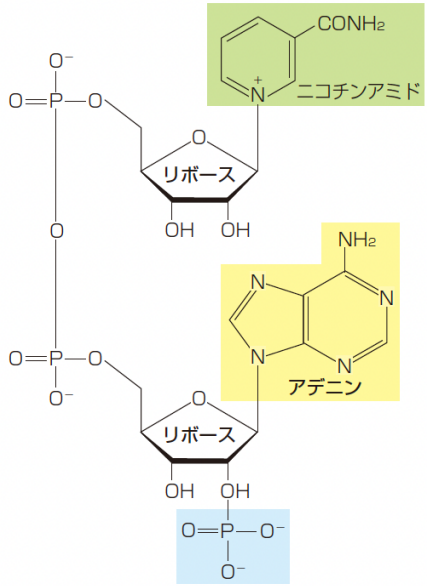
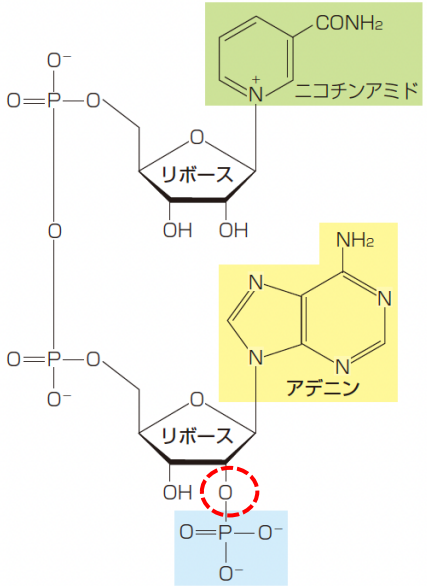
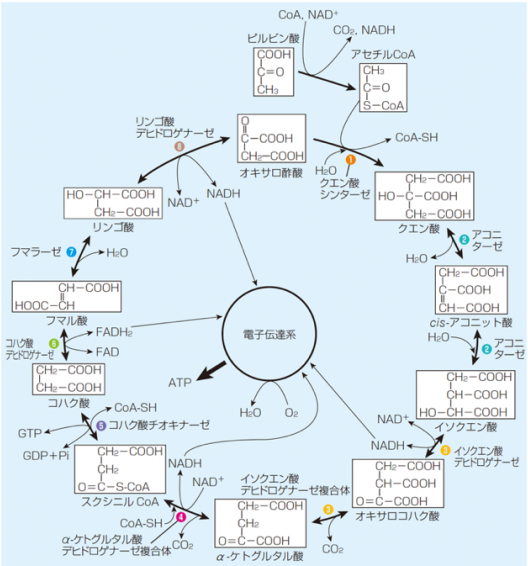
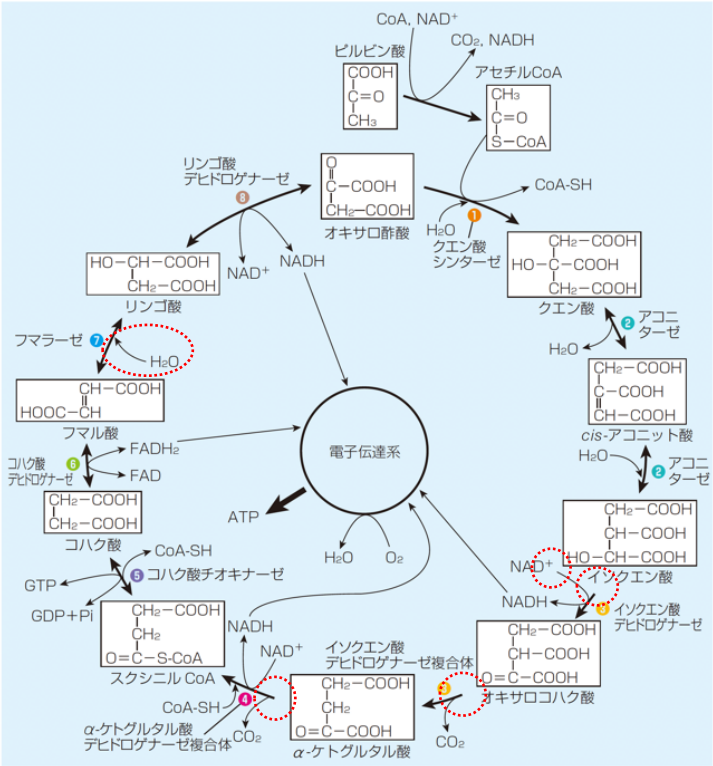
2025 年 2 月 26 日

改訂２版『集中講義 生化学』正誤表

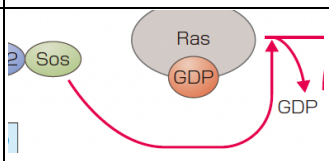
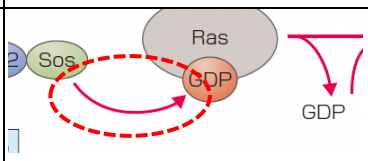
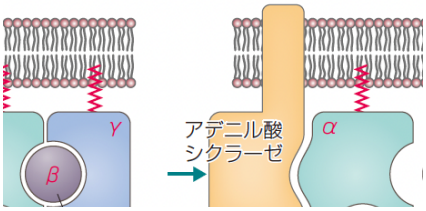
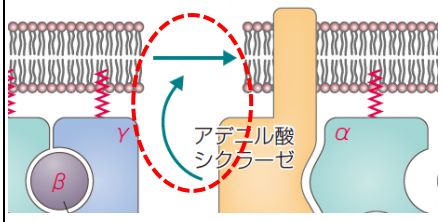
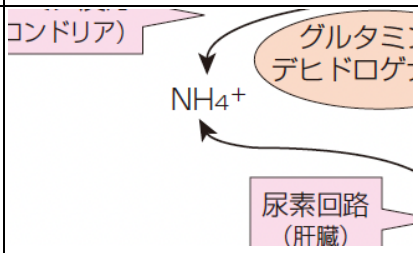
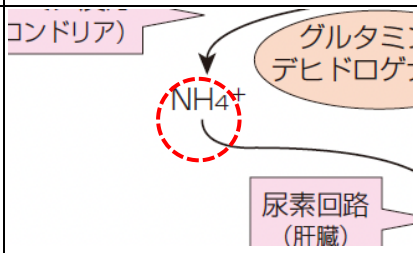
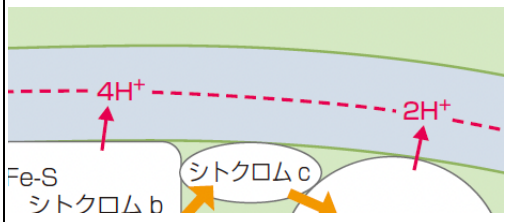
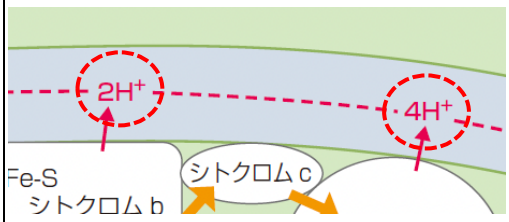
メジカルビュー社編集部

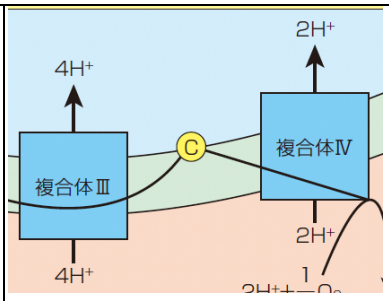
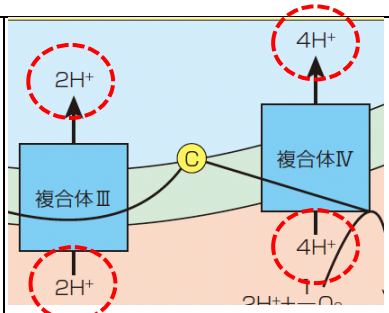
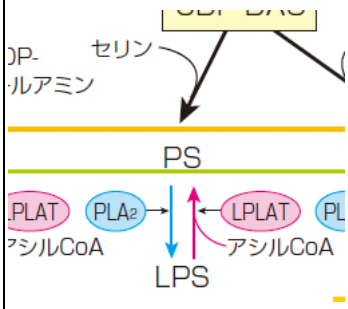
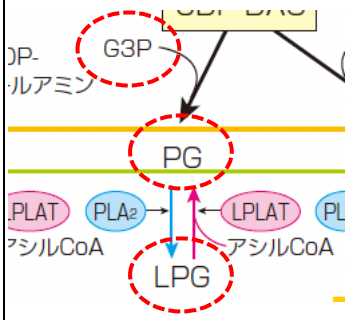
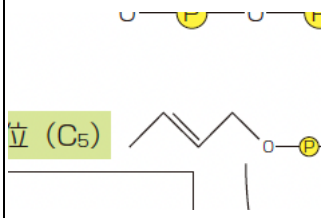
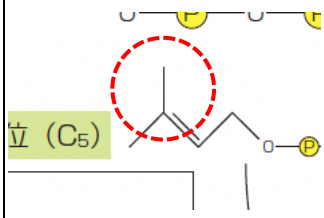
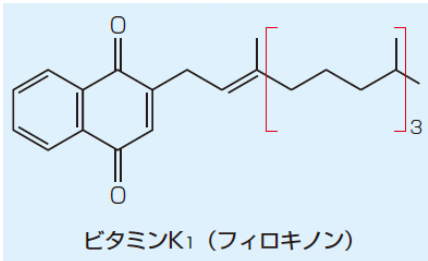
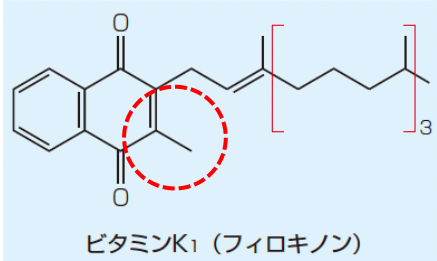
改訂２版『集中講義 生化学』に下記の誤りがありました。ここに深くお詫びし，訂正申し上げます。

第 1 刷（2017 年 4 月 1 日）～第 5 刷（2025 年 3 月 10 日）

頁	該当箇所	誤	正
10	図 3	b. ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸（NADP⁺）  NAD⁺にリン酸基を追加。Hを省略した（簡易な表記）。	b. ニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸（NADP⁺）  NAD⁺にリン酸基を追加。Hを省略した（簡易な表記）。 （OH を O に修正）
218	図 2	図2　クエン酸回路の反応  	図2　クエン酸回路の反応  （5 箇所の矢印の向きを修正）

第 1 刷（2017 年 4 月 1 日）～第 4 刷（2022 年 2 月 1 日）

頁	該当箇所	誤	正
23	図 2，左下	β-D-2'-デオキシリボース	2'-デオキシ-β-D-リボース
77	図 2，タイトル	図 2　増殖因子受容体のシグナル伝達	図 2　増殖因子受容体のシグナル伝達（MAP キナーゼカスケードを介する経路）
77	図 2		 （Sos から出る矢印の変更）
78	図 3		 （矢印の追加と向きの変更）
142	図 1		 （NH_4^+に向かう矢頭の削除）
150	図 3（2 箇所）	テトラヒドロプテリン，Fe^{2+}	テトラヒドロビオプテリン，Fe^{2+}
161	本文，下から 2 行目	難治性疾患克服研究事業の対象になっているが，まだ難病指定を受けていない。	2015 年に指定難病（254）となった。
186	本文 9 行目	…結合したもので，チアミンピロリン酸（活性型はチアミンニリン酸）（略語は TPP または TDP）である。	…結合したもので，活性型はチアミンピロリン酸（チアミンニリン酸）（略語は TPP または TDP）である。
195	本文 13 行目	・テトラヒドロビオプテリンの合成やジヒドロビオプテリンレダクターゼの活性が低下すると…	・テトラヒドロビオプテリンを合成する酵素やジヒドロビオプテリンを還元するジヒドロプテリジン還元酵素の活性が低下すると…
200	QUESTION 正解	d	b
223	図 1		 （$4H^+ \rightarrow 2H^+$，$2H^+ \rightarrow 4H^+$に変更）

223	図 2		 （4H⁺→2H⁺，2H⁺→4H⁺に変更）
224	本文 2 行目	…膜間腔に（2 個の）H⁺を汲み出す。	…膜間腔に（4 個の）H⁺を汲み出す。
225	本文 11 行目	…アスパラギン酸やα-ケトグルタル酸に変えて輸送され，…	…アスパラギン酸やリンゴ酸に変えて輸送され，…
225	本文 14 行目	それは p.220 で…	それは p.221 で…
286	図 1		 （セリン→G3P，PS→PG，LPS→LPG に変更）
287	本文 15 行目	…ホスファチジルセリン（PS）ができる。	…ホスファチジルセリン（PS）ができる（塩基交換反応）。
287	本文 18 行目	CDP-DAG はセリンあるいはイノシトールと反応して，それぞれ PS とホスファチジルイノシトール（PI）を生成する。	CDP-DAG はグリセロール-3-リン酸（G3P）あるいはイノシトールと反応して，それぞれホスファチジルグリセロール（PG）とホスファチジルイノシトール（PI）を生成する。
289	図 3，中央部		 （イソプレンの 2 位にメチル基の直線を加える）
346	図 5，ビタミン K_1		 （ナフトキノン骨格の 2 位にメチル基の直線を加える）
391	上部	4. スフィンゴエミリン	4. スフィンゴミエリン
391	中央	5. スフィン糖脂質	5. スフィンゴ糖脂質

改訂第2版『集中講義　生化学』正誤表

改訂第2版『集中講義　生化学』(2021 年 2 月 10 日 第 2 版第 3 刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし，訂正申し上げます。また，刊行後に新たに分類された酵素について，ここに変更・追記いたします。

2023 年 10 月 19日
（メジカルビュー社編集部）

頁	該当箇所	誤	正
186	左の欄外	1911 年に日本の農学者である鈴木梅太郎が抗脚気因子であるオリザニンとして発見するが，1912 年フックがビタミン B_1 として発表し，ノーベル賞を受賞した。	1911 年に日本の農学者である鈴木梅太郎が抗脚気因子であるオリザニンとして発表するが，1912 年にフンクがビタミンとして発表し，ビタミンという名称が生まれた。1929 年にホプキンスとエイクマンがビタミンの発見でノーベル賞を受賞した。

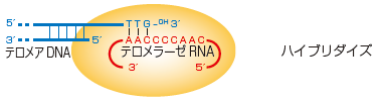
＜追記＞

頁	該当箇所	旧	新
168	模範解答 1 行目	……反応の種類により，EC1 群から EC6 群までの 6 種類に分類され，	……反応の種類により，EC1 群から EC7 群までの 7 種類に分類され，
168	模範解答最終行に追加		・2018 年に国際生化学分子生物学連合によってトランスロカーゼ(translocase)[日本語では輸送酵素]と命名された EC7 群が追加された。EC7 群には生体膜を超えてイオンや分子の局在を移動させる酵素が分類されている。これまで EC1 群や EC3 群に分類されていた酵素が EC7 群に移されている。
169	本文 1 行目	**■酵素の反応形式** ・6 群に分類された酵素の反応形式を**表 1** に示す。	**■酵素の反応形式** ・7 群に分類された酵素のうち，EC6 群までの酵素の反応形式を**表 1** に示す。
169	本文の最終行に追加		・EC7 群の酵素：これまで EC1 群に分類されていた電子伝達系の複合体，例えば，シトクロム c オキシダーゼ(旧 EC1.9.3.1)はミトコンドリア内膜を超えてプロトンを輸送するので，EC7.1.1.9 に変更された。また，EC3 群だった ATPase は ATP の加水分解反応が主要な機能ではなく，ATP を使って分子を輸送させることが重要な機能であるため，EC7 群に分類されることになった(例：Na^+/K^+-ATPase(旧 EC3.6.3.9)は EC7.2.2.13 に変更)。

改訂2版『集中講義 生化学』正誤表

改訂2版『集中講義 生化学』(2017年4月1日第2版第1刷)に誤りがありました。ここに深くお詫びいたし、訂正申し上げます。

2019年1月30日
(メジカルビュー社編集部)

頁	該当箇所	誤	正
50	図2　一番上の図		 赤いRNA分子の「テロメアDNA」が「テロメラーゼRNA」となる。
66	本文最終行	…セリン，プロリン，アルギニンは6通りの	…セリン，ロイシン，アルギニンは6通りの
69	図2　Step1 右下	A部位に入ったアシノアミルtRNA	A部位に入ったアミノアシルtRNA
196	本文下欄外	p.199 QUESTION 正解	p.203 QUESTION 正解(p.204へ移動)、p.200 にある正解が入る。
197	表1	鉄(Fe)　(Feイオン)の列にある　ドーパミンβヒドロキシラーゼ　を銅(Cu)の列へ移動	
200	本文下欄外	p.195 QUESTION 正解	現在ある正解はp.196 へ、p.204 にある正解が入る
204	本文下欄外	p.203 QUESTION 正解	p.199 QUESTION 正解(p.200へ移動)、p.196にある正解が入る。
212	模範解答2行目	…ピルビン酸は乳酸となり2分子の乳酸，2分子のATPとなる。	…ピルビン酸は乳酸にまで代謝され結果的にグルコースは2分子の乳酸と2分子のATPになる。
226	図1 ここがPOINT	マトリックス側に汲みあげられたプロトン(H^+)はATPシンターゼによって内腔側に戻る。そのときにATPが生じる。	膜間腔側に汲みあげられたプロトン(H^+)はATPシンターゼによってマトリックス側に戻る。そのときにATPが生じる。
233	図5　ここがPOINT 上から3行目	維持に働く筋肉では	維持に働く。筋肉では
236	下から14行目	…これらは共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)により，	…これらの共通の調節因子(フルクトース-2,6-ビスリン酸)は
237	図5 ここがPOINT 下から2行目	逆の脱リン酸化はグルカゴンに	逆のリン酸化はグルカゴンに(脱をトル)
265	模範解答3行目	高カロリー食を食べ続けると，…	過剰に糖分を摂取すると，…
268	8行目	コレステロールは胆汁酸，ステロイドホルモン，ビタミンDに変換される。	コレステロールは胆汁酸，ステロイドホルモンに変換される。(ビタミンDをトル)
269	QUESTION(2)	b MG-CoAリアーゼ	b HMG-CoAリアーゼ
288	左の欄外　本文1行目	ファネシルニリン酸は…	ファルネシルニリン酸は…
311	下から8行目	…皮膚表面の角質細胞質の成分で，…	…皮膚表面の角質細胞間質の成分で，…
378	左の欄外「代表的な調節」①解糖系　4行目	AMPで阻害され，クエン酸で活性化される。	AMPで活性化され，クエン酸で阻害される。